

第6回「都市づくりのグランドデザインの改定に向けた検討会」

議事要旨

1. 日時 令和7年12月16日(火) 13:00~15:00
2. 場所 東京都庁第二本庁舎10階 一般会議室210、211 (WEB 併用)
3. ゲストスピーカー

■ 国学院大学 観光まちづくり学部 教授 椎原 晶子 氏

「江戸東京の歴史・生活文化を未来につなぐ 東京の歴史文化まちづくりの課題と可能性」

■ BNPパリバ証券 グローバルマーケット統括本部 副会長 中空 麻奈 氏

「多摩地域の活性化と経済特区」

■ 日本大学名誉教授 岸井 隆幸 氏 (座長)

「東京の都市づくりについて」

4. 議事

※議事次第の通り

5. 主な意見

- ・東京の歴史・文化について、点としての文化財建造物や景観重要建造物だけでなく、面としての歴史文化地区、それを支える生業、人々の暮らしを守ることも重要。そのためには、制度的支援などのほか、保全する地域を、道路などを界として拠点形成する地域と分け、明確に設定するのも有効ではないか。
- ・東京の魅力をもっと高め、日本全体の競争力向上に繋げるためには、多摩や島しょに着目すべき。多摩では、子ども、高齢者、若者・子育て世帯など対象毎にアプローチを変え、それぞれに魅力的な街にする戦略が重要。町村・島しょでは、海外投資家向けのファンドの誘致なども一案では。
- ・時間で劣化する価値、熟成しプレミアムがつく価値の違いを認識したうえで、後者を築き上げていくには、半世紀以上などの長期的な時間軸で物事を考えることが重要。また、江戸時代だけでなく、経済発展してきた近現代も含め東京の魅力と捉えるべき。
- ・AI・テクノロジー分野では、時間軸を持って歴史・伝統を埋め込む段階には達していないが、ドラえもんなど「幸せ」なテクノロジー活用の世界観に親しんでいる日本人にとっては受容性が高いのではないか。グランドデザインの改定では、都市全体として目指すべき姿を示して欲しい。
- ・グランドデザインの改定では、多様な拠点を繋ぐ連携軸の強化による国際ブランド化、自動運転を前提とし防災・環境機能を連携させた物流センター、公共交通網を活かした世界に誇るライフスタイルの次の展開としての歩行者優先軸やCo- (共同) 活動の拠点整備、施設毎ではなく全体最適の視点でのオリパラレガシーの活用などを期待する。
- ・2002年の都市再生特別措置法により緊急経済対策として行われてきた都市再開発と、それに伴う公共貢献の形を捉えなおし、個性あふれる東京の今後に繋げていくことが重要。また、AIで育った世代が中心となる2050年代がどのような社会となっているか考えながら、常に新たな技術を取り入れていく姿勢が重要。東京の未来像をデザインしたうえで、時間から空間に落とし込んで欲しい。